

2021年1月25日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科  
課題研究

外国にルーツを持つ生徒への性教育の  
映像教育教材の開発

Development of Video Materials on Sex Education  
for Students in Japan Having a Foreign Nationality

19MW005

小松みなみ

## 論文要旨

【目的】本研究の目的は、ブラジルにルーツを持つ生徒が、性に関する知識をもつことができ、自己のライフプランをもつことができる教育教材を開発し、専門家から評価を得て、教育教材を精選させることである。

【方法】研究デザインは、外国にルーツを持つ生徒への性教育の対訳版の映像教育教材を開発し、評価する評価研究である。UNESCO や東京都教育委員会などのガイドラインを参考に、内容を検討した。「やさしい日本語」を使用し、ポルトガル語の翻訳を想定してスライドを作成し、映像教育教材を作成した。内容は妊娠について、出産と赤ちゃん、性感染症、ライフプランの大きく4つのセクションで構成した。Google フォームを使用して、ブラジル人学校の教員、性教育経験のある養護教諭と助産師より、評価を受けた。その後、評価より修正点を抽出し、ポルトガル語の翻訳を入れ、修正版映像教育教材を作成した。

【結果】ブラジル人学校の教員2名、養護教諭3名、助産師3名から、映像教育教材全体としての適切性、映像教育教材の内容としての適切性、映像教育教材全体についての項目で評価を受けた。全体として、1つの項目を除き30項目で適切性について、肯定的な評価が過半数を占めていた。色覚異常に対する配色への指摘や話す速度やスライド展開の速さなど、映像としての見やすさに対する意見があった。また、教材の内容については、LGBTQ への配慮や、ライフプラン立案時の PTSD や生き方の多様性を指摘する意見があった。さらに、教材の分かりやすさを評価する一方で、ライフプランの立案という目的に沿っているのかという意見もあった。

評価を受けて修正点を抽出し、修正版映像教育教材を作成した。図やイラストの量を増やし、イメージしやすいスライドを作成したり、LGBTQ などの多様性への配慮も含めたりした。内容の構成について、大きくは変更せず、内容を増やしつつも図やイラストを用いることで、1セクションが15分以内となるようにした。

【結論】ブラジルにルーツを持つ生徒が、性に関する知識をもつことができ、自己のライフプランをもつことができる教育教材について、概ね肯定的な評価を受けた。評価に基づいて、修正を行い、やさしい日本語とポルトガル語の二言語併記の修正版映像教育教材を作成した。映像教材の活用として、外国にルーツを持つ生徒だけではなく、日本人生徒への使用についての可能性も示唆された。